

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 16

Dexter Gordon【デクスター・ゴードン】

～俳優としても活躍した名テナーマン～



Photo by Fresh Sound Records: (FSRCD 154)

Profile

本名はデクスター・キース・ゴードン。1923年2月27日米国カリフォルニア州ロサンゼルスで生まれる。父親は医師。13歳でクラリネット、15歳でサックスを始め、その頃より和声・理論を学び、やがてレスター・ヤング(ts)やコールマン・ホーキンス(ts)からの影響を受けながら独自のスタイルを確立していく。40年より友人のマーシャル・ロイヤル(as)の誘いをきっかけに3年間ライオネル・ハンプトン楽団で演奏。次いでフレッチャー・ヘンダーソン(p)、ビリー・エクスタイン(vo)、チャリー・パーカー(as)等と共演。特にワデル・グレイ(ts)とのテナー・バトルは人気を呼んだ。しかし、52年ドラッグ常用が祟って療養と投獄生活を余儀なくされ、その後2年間チノ刑務所で過ごす。一時的に仮釈放の期間を利用したレコーディングを行うも、50年代は音楽界からほとんど姿を消した状態だった。60年に入ると驚異的なカムバックを果たし、ブルーノートを主に精力的なアルバム制作活動を始める。62年以降はもっぱら欧州で活躍し、渡仏中のバド・パウエル(p)等と共演。その後もコペンハーゲンに居を構え、欧米を行き来する生活が14年間続くことになる。76年12月に帰米を決意し、帰米後は円熟した演奏で精力的にレコーディングやライブ活動を続ける。晩年には、音楽以外にも俳優としての活動も行い、映画『ラウンド・ミッドナイト』では、87年のアカデミー賞の主演男優賞にノミネートされるほど話題となる。持病であった腎臓疾患と戦いながら最期まで精力的な活動を続けるが、90年4月25日持病の腎臓疾患の悪化によりフィラデルフィアにて死去。享年67才。ニックネームの“ロング・トール・デックス”は、身長が192~3センチもあったことから付けられた。

デックスの記念すべき初リーダー作品！



デクスター・ライズ・アゲイン

デクスター・ゴードン

(コロムビアミュージックエンタテインメント: C0CB-53460)

デクスター・ゴードン (ts)、レナード・ホーキンス (tp)、レオ・パーカー (bs)、バド・パウエル、タッド・ダメロン (p)、他

1. デクスターズ・リフ
2. セッティン・ザ・ベース・パート 1 & 2
3. ソー・イージー
4. ロング・トル・デクスター
5. デクスター・ライズ・アゲイン
6. アイ・キャン・エスケイプ・フロム・ユー
7. デクスター・デイクス・イン (他、全 11 曲)

50 年代半ばの力強いデックス節が冴え渡る快作！



ダディ・プレイズ・ザ・ホーン

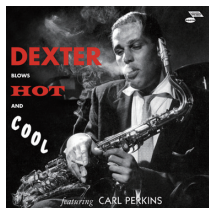
デクスター・ゴードン

(ビクターエンタテインメント: VICJ-61454)

デクスター・ゴードン (ts)、ケニー・ドリュウ (p)、リロイ・ウィネガー (b)、ローレンス・マラブル (ds)

1. ダディ・プレイズ・ザ・ホーン
2. コンファメーション
3. ダー・ザット・ドリーム
4. ナンバー・フォア
5. ニューヨークの秋
6. ユー・キャン・ディペンド・オン・ミー

カール・パーキンス (p) をフィーチャーした渋い名盤！



デクスター・フローズ・ホット・アンド・クール

デクスター・ゴードン

(Fresh Sound: FSR1601CD)

デクスター・ゴードン (ts)、ジミー・ロビンソン (tp)、カール・パーキンス (p)、リロイ・ウィネガー (b)、チャック・トンプソン (ds)

1. シルバー・ブレイテッド
2. クライ・ミー・ア・リバー
3. リズム・マッド
4. ドント・ウォーリー・アバウト・ミー
5. アイ・ヒア・ミュージック
6. ボナ・ルー
7. アイ・シュッド・ケア
8. ブローイン・フォー・ドゥーティー
9. テンダリー

映画『ラウンド・ミッドナイト』

監督はベルトランド・タベルニエ、ハービー・ハンコックが音楽監督を務めた映画『ラウンド・ミッドナイト』(1986 年)。ジャズ・ピアノの巨人＝バド・パウエルをモデルにし、50 年代のパリに住むアメリカ人ジャズ・ミュージシャンと 1 人のファンとの出会いの物語。主演はデックスで、その他有名ジャズ・ミュージシャン達も出演した。中でもデックスの演技は 1986 年(第 59 回)アカデミー賞の主演男優賞ノミネートとしてポール・ニューマンと競うほどの評価を得る(結果的に主演男優賞はポール・ニューマンに輝き、その他のノミネートはボブ・ホスキンス、ウィリアム・ハート、ジェームズ・ウッズだった)。その後、再びロバート・デ・ニーロ主演の映画『レナードの朝』(1990 年)で、存在感抜群の演技を披露したが、既に病魔が進行しやせ細った姿が痛々しかった。晩年には俳優としても大活躍したデックス。その勇姿はジャズ界にとって永遠の宝だ。

馬に乗ったカウボーイにデックスを抱えさせたジャケットでもお馴染みの本作は、デックスがバド・パウエル (p)、マックス・ローチ (ds)、アート・ブレイキー (bs) 等をバックに、1945-47 年にかけて吹き込んだ初リーダー・アルバム！ 収録 11 曲中 8 曲のタイトルに自身の名前「デクスター」という名前が付いている通り、ビバップ〜ハードバップ期からその名を世に知らしめた若きデックスの誇りと魂が漲っている。「ロング・トル・デックス」などはビバップの名曲と言えるナンバーで、この「ロング・トル・デックス」を含め、バド・パウエルと共演した「デクスター・ライズ・アゲイン」「アイ・キャン・エスケイプ・フロム・ユー」「デクスター・デイクス・イン」は必聴のナンバー！

デックスがヒロイン所持により、約 2 年間チノ刑務所で療養兼投獄生活を経た後の仮釈放期間を利用して 1955 年に LA で録音されたアルバム。この間に盟友ワーデル・グレイとチャーリー・パーカーがこの世を去り、デックスの精神的ダメージは計り知れなかったであろうが、2 年間のブランクなど全く感じさせない力強さがある。タイトル曲のデックス・オリジナルのブルースで始まり、バード作の「コンファメーション」、スロー・バラードの「ダー・ザット・ドリーム」、デックスが主演を務めた映画『ラウンド・ミッドナイト』でも演奏された「ニューヨークの秋」と、デックスが機嫌の演奏が楽しめる。肺を固めるメンバーも力強くデックスを盛り上げ、久しぶりにシヤパの空気を吸ったデックスが何ともいい感じ！

この渋いジャケットだけでも価値ある 1 枚だが、内容もイカしている。タバコの煙に浮かぶ気だるそうなデックスの表情の如く、バラード 4 曲を含むデックスの cool でちょっぴり lazy なテナーの音色が堪らない。盤にもよるが、ジャケット下に“featuring Carl Perkins”とあるように、本作録音から 3 年後の 1958 年、交通事故により 29 歳という若さでこの世を去った名ピアニスト、カール・パーキンス(「ブルー・スウェード・シューズ」で有名なロカビリー・スターと同名同名だが全くの別人)をフィーチャーし、ベースはリロイ・ウィネガー、ウエスト・コーストを代表する名手たちによるサポートを受けてデックスの重厚でメロウなテナーが炸裂！ 中でも「クライ・ミー・ア・リバー」は最高の名演！！

デックスの Official Website

英語版だがデックスの Official Website が存在する。Biography や CD 情報は勿論、デックスの演奏シーンが見れたり、iTunes に対応していたりと充実の内容を誇っている。アドレスはこちらです ⇒ <http://www.dextergordon.com/>

メタリカのドラマーの代父として

1981 年に米国ロサンゼルスで結成され、大成功を収めたヘヴィメタル/スラッシュメタル・バンド「メタリカ(Metallica)」のドラマー＝ラース・ウルリッヒ(Lars Ulrich)はデンマークのセントフテ出身で、父親は現地でジャズ・クラブのマスターとして働いていたが、デックスがデンマークのセントフテに滞在していた頃、マスターである父親と親しくなったことでウルリッヒ家とも親しくなり、デックスがラース・ウルリッヒの代父となった。